

「備北商工会地区」景気動向分析レポート 令和5年4月～6月期

《調査目的》

「伴走型小規模事業者支援推進事業」の一環として管内の景気動向等についてより詳細な実態を把握するため、全国商工会連合会が行う「小規模事業景気動向調査」を継続して実施。その結果と経営指導員等の行う巡回及び窓口相談によるヒアリングを分析し、まとめたものを管内事業者に対して提供するものです。

《調査概要》

対象期間：令和5年4月～6月

対象事業所：備北商工会地区内の事業所

回答企業：15企業

製造業2 建設業2 小売業5 サービス業6

【産業全体】

今期(4～6月期)の調査結果を見ると、産業全体の業況については、約7割の事業所が不変と回答していることから、横ばいの状態が続いている。新型コロナウイルスの感染症法上の5類への変更を受けて、経済社会活動の正常化に向けた動きが加速すると期待されることから、人流が増え、個人消費の持ち直しが続くと思われるが、物価上昇により購買意欲が低下し、個人消費が停滞する懸念がある。

【製造業】

今期(4～6月期)の調査結果を見ると、売上について増加したと回答した事業所もあるが、その他の項目については全て不変と回答している。新型コロナウイルスの影響が薄らいだことで客足が戻りつつあるが、原材料の価格高騰が続く中、消費者から理解が得られるのか不安もあり、自社商品への価格転嫁に踏み込めないでいる。

【建設業】

今期(4～6月期)の調査結果を見ると、完成工事額について減少したと回答した事業所も、その他の項目については全て不変と回答している。これは、円安の影響もあり、資材の価格高騰が続く中、価格転嫁が十分に出来ていない上に人手不足も続くなど不安要素は多いが、一方で令和2年度豪雨災害の復旧工事が今後2～3年は続いていくと見込まれることから、業況は横ばいの状態が続くと予測される。

【小売業】

今期(4～6月期)の調査結果を見ると、売上について4割の事業所が増加したと回答したが、利用客数については8割が不変と回答している。これは、仕入価格の上昇分をそのまま価格転嫁したことで売上は増加したが、一回当たりの購入点数の減少により利益率が低下していると思われる。

【サービス業】

今期(4～6月期)の調査結果を見ると、売上と利用客数においては、半数の事業所が増加したと回答しており、新型コロナウイルスの影響が薄らぎ、人流が増えたことから消費活動が活発化していると考えられる。来期も売上、利用客数とともに増加が期待される。

産業全体の業況

業況DI値(前期比) ※商工会地域のみ
(前期) (今期)

	R5.1～3	R5.4～6	前期との比較
備北	-40.0	20.0	↗
広島県	-15.7	-11.0	↗

DIとは Diffusion Index (景気動向指数)の略。
各調査項目について、増加(好転)企業割合から、減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示し、「変化の動向」を把握する。
DIがプラス(+)なら………強気(楽観)、上昇機運
DIがマイナス(-)なら………弱気(悲観)、低下機運

広島県の主要景況項目の推移(前年同期比)

【製造業】	製造業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R5.1～3	R5.4～6	前期との比較
	売上額	-2.2	12.2	↗
	原材料仕入単価	83.7	83.0	↘
	採算	-11.1	-18.0	↘
	資金繰り	-13.3	-6.1	↗

【小売業】	小売業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R5.1～3	R5.4～6	前期との比較
	売上額	-27.5	-13.0	↗
	商品仕入単価	65.7	71.1	↗
	採算	-32.8	-33.8	↘
	資金繰り	-26.1	-22.1	↗

【建設業】	建設業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R5.1～3	R5.4～6	前期との比較
	売上額(完成工事額)	-2.0	-26.2	↘
	材料仕入単価	70.2	48.8	↘
	採算	-27.1	-31.7	↘
	資金繰り	-6.3	-12.2	↘

【サービス業】	サービス業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R5.1～3	R5.4～6	前期との比較
	売上額	-6.0	20.3	↗
	材料等仕入単価	68.2	71.6	↗
	採算	-40.3	-10.2	↗
	資金繰り	-24.6	-1.5	↗